

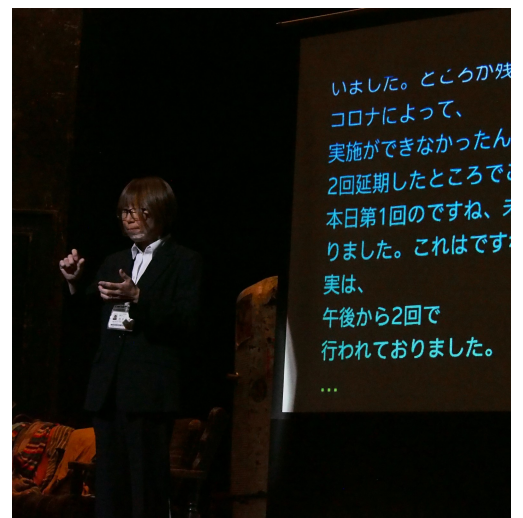
2022.8

㊦ さやかグループ広報誌

No. 91

SAYAKA

SAYAKA未来フォーラム



第1回SAYAKA未来フォーラムを終えて

—全ての障害者が地域で暮らせるために—

社会福祉法人 清心会
理事長 村山 勇治

去る6月25日、コロナ禍にあって巡回アメニティーフォーラムin埼玉&第1回SAYAKA未来フォーラムが、無事盛況裡に終えることができました。あらためて関係各団体のご支援と法人の実行委員はじめ、それぞれの部署で役割をしっかりと果たしてくれた職員に感謝いたします。

今回、障害福祉分野で大きな影響力を持つアメニティーフォーラムの主催団体でもある全国地域生活支援ネットワークのご厚意で、今年、すでに鹿児島、高知、大阪で開催した巡回型アメニティーフォーラムを関東地区は埼玉秩父でと指名を受けたことからジョイント開催が実現し、当法人が事務局を担うことになったものです。

巡回アメニティーフォーラムには当初予想していた数を大幅に超える参加があり、会場は大盛況でした。本年は国において障害者総合支援法の見直しが行われる年であり、現在社会保障審議会障害者部会で検討されており、今秋にはその内容が示される予定になっています。それに向け、登壇者による熱い議論が交わされ、意義のあるフォーラムとなりました。また、現在の秩父地域に必要な地域生活支援拠点についてもわかりやすく説明をいただき、福祉関係者の中でもイメージが共有できたように感じました。

後半のSAYAKA未来フォーラムは、3年前の6月に第1回の開催を計画していましたが、新型コロナウイルスの感染が始まり、延期を余儀なくされ、さらに1年後、つまり昨年も見送らざるを得ず、今回3度目の正直となりました。

これまでも、さやかグループとして20年以上にわたり、年1~2回外部から講師や舞台芸術団体をお呼びして、一般公開の「さやか福祉セミナー」を開催し、その数が30回を数えるに至りました。これを契機に新たに「SAYAKA未来フォーラム」と名前も変え、今回記念すべき第1回は、東京演劇集団「風」によるバリアフリー演劇「Touch~孤独から愛へ~」の上演が実現しました。東京演劇集団風の皆さんには昨年秋の「日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバルin関東甲信」の際にも同じ会場で「ヘレン・ケラー~ひびき合うものたち」を上演していただきました。

会場となった秩父宮記念市民会館大ホールには、600名を超える方々にご来場いただき、コロナ禍における集合型のイベントが少なくなっている昨今において、久々に皆で演劇を楽しむことができました。

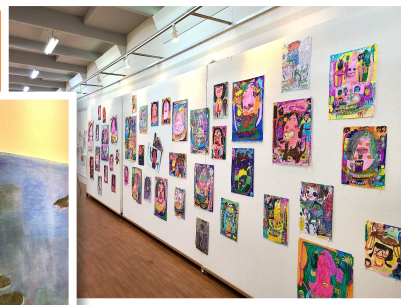
特に、終演後の利用者の皆さんの表情は充実感に溢れていて、開催が叶って本当に良かったと実感いたしております。

昨年の日本博を秩父で開催して以降、当地では障害者の文化芸術に関する機運が大変高まっております。今回のフォーラムの中においても熱い議論が交わされましたが、まだまだ障害当事者の文化芸術の可能性は無限に秘めているように思えます。その潜在的な可能性をいかに導き出すのかを、私たち支援者や関係者が連携して模索していく必要を改めて感じました。

また、併せて日本博では合理的配慮を学ぶ機会も得られ、少しずつではありますが、法人内でもその意識が高まっていることを感じています。誰もが地域の中で幸せを感じながら機嫌よく暮らせる共生社会を実現していくために、日々の学びを大切にこれからも精進していく所存です。



アートは生きざま



令和4年7月4日～10日に、2年ぶりの開催となった「SAYAKA～アートコレクション～」

短い開催期間となりましたが、来場者数 370名と多くの方にご来場していただきました。

「回顧と未来への発展」の思いを込めて展示をさせていただきましたが、作品を選定していく中で、『アートは生きざま』であると強く感じました。

これからも多くの方々にアーティストさんの『生きざま』を感じていただける機会を作っていきたいと思います。

ふらわあ事業所 荻原幸穂

遂にぽっぽがテレ玉出演！！

記事担当：さやかワークセンター事業所 根岸 孝博

桜満開の4月6日に、ぽっぽ長瀬店にてテレ玉の生中継取材がありました。

夕方の「情報番組マチコミ」の中で、長瀬町の北桜通りと一緒にぽっぽ長瀬店を紹介していただきました。

さすがベテラン井上所長は、流暢な口調で店舗紹介を行いました。これに対して、リハーサルから緊張気味の大沢職員は、若干顔を引きつりながらでしたが、パンやラスクを無事宣伝することができました。この取材を受け、週末の土日も臨時営業とし、多くのお客様にご来店いただきました。本当にありがとうございました。



ぽっぽスペシャル

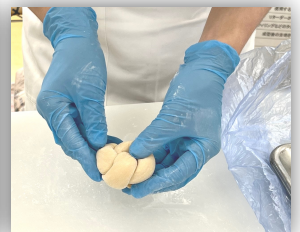


↑ テレ玉で紹介されたパンの一部です！ ↑
そして今 **イチオシ** のパンがこちら！

「野村パン第三弾発売中！」野村くんの黒糖ロール！



ご家庭で試作を重ねパン職人とも相談し出来上がりました。難しかったポイントは生地を伸ばし結ぶ事と野村くんは話しています。YouTubeを観ながら練習をしたと教えてくれました。黒糖だけで色を出しているので市販されている黒糖パンよりも色が薄いのが特徴。そのまま食べてもよし！焼いて食べてもよし！バターやマーガリンを塗ってもよし！第四弾を今秋頃に予定しています。乞うご期待！



野村くんの黒糖ロール！

1袋2個入り ¥160円

★ 店舗 ★

● ぽっぽ横瀬本店

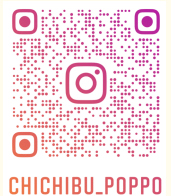
(営業時間：10:30～16:00/定休日：土・日・祭日)
〒368-0072 秩父郡横瀬町横瀬4299-1 ☎0494-26-6613

● ぽっぽのお店 ばらーど

(営業時間：10:00～16:00/定休日：土・日・祭日)
〒368-0044 秩父市本町7-4 ☎0494-25-3100

● ぽっぽ長瀬店

(営業時間：10:30～17:00
定休日：土・日・祭日)
〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬59
☎0494-69-2880



CHICHIBU_POPPO

とも農業クラブ



利用者さんが楽しみにしている活動の一つにクラブ活動があります。本事業所では、今年度より農業クラブを設立しました。栽培する作物は、もちろん借金なし大豆。クラブ決め前の活動内容説明では、大豆の種を植えること、草むしりをしながら成長を実感すること、大豆を収穫するときの喜びなどについて話をすると、多くの希望者から拳手がありました。

「生活介護の事業所でも、畑の活動はできる」そんな確信を持ってクラブをスタートさせました。種まきの時には、畑の端の1列にブルーシートを敷き、そこに利用者さんを降ろすと、自らの手で種を土の中に植えることができました。利用者さんとともに、りっぱな借金なし大豆が収穫できる日を心待ちにしています。

なお、収穫した大豆は、さやかワークセンターにて加工され「借金なし味噌」としてぽっぽ各店舗や矢尾百貨店、道の駅等で販売されています。
とも事業所 長谷川修治



さやかワークセンターにて「借金なし味噌」になるまで



たかしのファーム開園

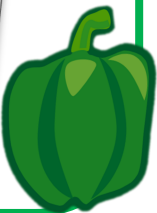
今年からセンターの中庭にある畑をお借りし野菜作りを始めました。

テーマは「自分の手で収穫し食べる」です。

定番ですがミニトマトをメインとし、おくら、ピーマン、ナス、さつま芋を植えました。また、毎年言わずとも生えてくる青しそを育てています。日に日に色づいていくミニトマトを見つけては「明日は食べられるね。」と楽しみにしていると、翌日には誰かに先を越され収穫されてしまうこともあり競争率の激しい世界となっています（笑）

それだけテーマに沿った自分で収穫ができる醍醐味だと思います。これからはたくさん実がなるので競争せずに食べられそうです。


たかしの事業所 岩田紀江



＝編集後記＝

残暑の候、皆様方におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。今年は、過去最速で梅雨が明けてしまったとのことでした。6月から夏本番を迎え、異常に長い夏を乗り切らなければなりません。適切に冷房をご使用いただき、どうぞ健康にご留意ください。そんな中ではありましたが、晴天に恵まれ、第1回SAYAKA未来フォーラム（巡回型アメニティフォーラムとの共催）を開催することができました。著名な方々を招き、秩父の地から最先端の情報発信ができたのは意義深いものがあります。今後、障害者分野における第一人者を目指し活動していく所存ですので、ご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。
さやかサポートセンター 原 真澄

※令和3年度事業報告・決算報告につきましては、ホームページの情報公開をご覧ください。

社会福祉法人 清心会  さやかグループ <http://www.sayaka.or.jp>

